

## 平成28年度第1回食育推進会議議事録

- (1) 日時 平成28年8月4日(木) 19:00~21:00
- (2) 場所 佐世保市役所5階庁議室
- (3) 出席者 <委員>  
柴田会長 林委員 野々村委員 山田委員 迎委員 前田委員 川崎委員 岡委員  
井手委員 山村委員 土井委員 真弓委員  
<事務局>  
塚元保健福祉部長 濱崎保健所長 小寺保健福祉部次長 竹下保健福祉部次長  
山口健康づくり課長 野中健康づくり課長補佐 橋口副主幹 北野副主幹  
金ヶ江係長 管理栄養士 志方 馬場 古賀  
<食育推進検討委員会>  
中島観光課長補佐 岩永農業畜産課長補佐 坂本農林水産部次長兼水産課長  
戸浦水産振興係長 吉田卸売市場 味志人権男女共同参画課長  
松永人権男女共同参画課係長 松尾医療保険課長補佐 辻医療保険課主任技師  
大島生活衛生課食品衛生係長 上山食肉衛生検査所長 八木子ども育成課長  
前田子ども育成課幼児教育センター主査 納富子ども保健課長  
吉浦子ども保健課主査 片山廃棄物減量推進課長 迎学校保健課長  
浜砂学校保健課副主幹 真崎学校保健課主査 吉永社会教育課指導係長  
吉住公民館政策課長 森公民館政策課主任主事
- (4) 議事 ① 第3次佐世保市食育推進計画(案)について  
② その他
- (5) 質疑

### 【事務局】

開会のことば  
新任委員の紹介及び委嘱状交付  
会議成立の報告  
部長挨拶  
諮問  
情報公開について  
資料の確認

### 【柴田会長】

それでは会議を進行いたします。  
議事に入ります前に、今日の会次第を見ますと、本日は議事としまして、その他まで含めて大きく2項目挙げられております。

議事 1 第3次佐世保市食育推進計画（案）について事務局からの説明をお願いします。

【事務局】

資料3の計画策定スケジュールについてご説明いたします。

それでは、資料3：佐世保市食育推進計画（第3次）スケジュールをご覧ください。

6月6日に庁内関係各課の担当で構成するワーキング会議、7月1日に課長で構成する食育検討委員会で協議し、計画案を作成いたしました。

先日、その計画案を委員のみなさまに郵送し、計画案に対するご意見を事前にいただいておりますので、その内容に対して説明を行います。本日は、その内容を踏まえ、ご意見を願います。

会議でのご意見を基に、必要な箇所は修正を行い、9月にパブリックコメントを実施します。パブリックコメントの意見を踏まえ、必要があれば修正を行い、最終案として食育推進会議から市長への答申を行っていただきます。

その後、第3次計画を最終決定し、12月に議会に報告いたします。第2回食育推進会議では、完成した冊子をお渡しし、計画決定の報告を行う予定としております。

計画案につきましては担当から説明させていただきます。

それでは、資料1：第3次佐世保市食育推進計画（案）をご覧ください

まず、計画の構成ですが、表紙の次のページ、目次をご覧ください。

計画は、6章で構成しています。

第1章が、今回、計画を改訂する趣旨や改訂の位置づけなどです。

第2章が、昨年9月に実施した市民アンケート結果から、現在の本市の食育の現状や今後の課題を洗い出しています。

《～省略～》

【柴田会長】

どうもありがとうございました。

第3次佐世保市食育推進計画について概要を説明いただきましたけれども、なかなか資料の量が膨大ですね。把握するのが大変だろうと思いますが。

今回、第3次佐世保市食育推進計画の案が事務局から事前に委員の皆様のお手元に送付されておまして、事前に修正案とかご意見を事務局にご報告いただいております。本日、配布されておられます資料4「計画書案に対する食育推進会からの意見等一覧表」ですね。これによりまして各委員からご意見をいただきました。これについてまず、事務局からご説明をいただきたいと思います。

資料4をご覧ください。まず、1番最初に野々村委員からいただいたご質問ですけど、全体的にということでもちょっと読ませていただきます。第2次計画の基本目標が悪化した項目について、食教育の実践が行われたにも関わらず、このような結果に至った理由など（方法、回数、内容・・・）教育を実践する担い手が少ないのかもしれないですね。よろしく願います。というご質問をいただきました。なかなかこれは根本的なところに関わるかと思っておりますが、計画書のP6をご覧くださいと思います。先ほどご説明いただきましたけれども、第2次計画の基本目標達成状況です。これも、前日も

ご覧いただきましたが、1から14まで基本目標があって、中には達成されたもの「8020運動の推進」や14番の「食文化の継承」特にお箸の持ち方、これらは◎がついていますが、達成できなくて×がついているものがいくつかあります。22年の第2次策定時のアンケート結果と比較して昨年実施されましたアンケートで目標値に達成できていないものがありますので、これに従って進めていきたいと思えます。

まず、目につくのが、基本目標の2番「朝食の欠食について（欠食する市民の割合の減少）」で、22年と比べて去年の27年が特に悪かったのが小学2年生、小学5年生です。中学生は目標値には達成していませんが、そう悪くはなかったです。成人がちょっと悪かったです。欠食する児童が非常に問題となっていると思えます。以前から会議の度に議論をしていただいておりますが、アンケートの中では、欠食の理由で「朝起きられない」や「夕食を食べた後に夜食を食べる」という回答が多いというような結果でした。それが一つです。それから資料4をご覧いただきたいのですが、本日、ご欠席の靄田委員から番号3のところで朝食の欠食について質問をいただいております。読ませていただくと、「朝食の欠食が目標に挙がっており、人が元気に活動していくためには朝食は重要であり、紙芝居、指人形などを使って親子で正しい理解をしてもらえよう働きかけをしてみたいか」という質問をいただいております。欠食する児童が増えたこと、それから靄田委員からのご質問を踏まえて、この2点について、事務局からの説明をいただきたいと思えます。子ども育成課の方でしょうか？

#### 【子ども育成課】

私どもの所管しておりますところは公立保育所、公立幼稚園でして、全体からすると極めて限定的なウエイトとなるかと思えますがご了承ください。公立保育所で朝食の欠食について直接現場に関わっている訳ではありませんので、現場に確認したところ、具体的な事例で申しますと、以前、子供さんにおにぎりを持たせたり、パンを持たせたりとご家庭で朝食を取られていない子供さんがかなり見受けられていたというようなお話をいただいております。そういった中で、個別に先生が保護者に、食の大切さ、朝食の大切さを個別に対応、ご説明し、理解を得て、最近ではそのような状況が少なくなっているというようなお話を聞いております。公立保育所は市内に3地区ありまして、東部は早岐、中部は大黒、北部は上相浦にございますが、中でも周辺部、東部・北部よりも中央部の大黒保育所の子供さんにそういう傾向がみられるという報告を受けておりました。園でも、通常保育の中でも園児にお話をし、給食だよりや保育参観というところで保護者に給食の試食をしながら食の大切さのお話をさせていただいているという状況でございます。もう1つ具体的な事例で申しますと、食育講座を開催する中で、「早寝、早起き、朝ごはん」をテーマに食育講座を開催したときに初めて保護者に簡単朝食レシピを募ったときに、保護者からいくつかレシピが出てくるかと期待をしておりましたが、1件もレシピが出されず、現場の保育士ががっかりしたところがありました。そういうところでは保護者の意識や関心を高めていくということが重要であると感じました。

#### 【会長】

ありがとうございました。未就学児は悪くはなかったですね。小学校2年生、5年生が問題でした。子ども育成課からご報告いただきました。学校保健課はいかがでしょう？

**【学校保健課】**

朝食の欠食については目標までは達成できなかったということで残念ですが、学校における食に関する指導の中で、特に朝食については継続的に実施しているものでございます。例えば、小学校の6年生では、家庭科の授業の中で「炒めて作ろう朝食のおかず」という単元を設けておまして、その中で朝食の役割や朝食の大切さを学びとらせることや朝食づくりを計画して調理の実習を行う中で学んでもらうということを行っております。また、中学生の家庭科の中では、「食生活と栄養」という単元がございまして、その中で食事の役割、中でも朝食の重要性、朝食を食べることで、体にエネルギーを補給することが、体の活動を活発にさせるというようなことを含めて、学ぶ時間を設けています。他にも学校の実情に合わせて、特別活動で食の教育の実践をできるだけ行うようにしております。このような取り組みが、わずかではありますが、少しばかりでも朝食の欠食率を低下させてきたと思われませんが、残念ながら目標は達成できませんでしたので、今後については、もう少し努力していくことが必要であると感じております。また、小学校2年生と5年生の朝食の欠食率が増加しているということにつきまして、これからも、先ほども申し上げました、朝食を食べることで体が活発になるということを含めて朝食の大切さを保護者の方へも啓発を進めていきたいと考えております。

**【会長】**

ありがとうございました。子供のときの食習慣は大人まで引き継がれていくので非常に大切な問題であると思っております。

それでは、次の基本項目4番の「食事バランスガイドによる栄養バランスに配慮した食生活について」22年と27年を比較しますと、55.9%が38.1%、23.4%が19.3%へかなり下がっています。食育推進会議が発足して10年になり、いろいろな部署でいろいろな活動をされているかと思いますが、それにもかかわらず、低下しているというのは残念な気がします。

もう一つ、鶴田委員から資料4の5番をご覧いただくと、食事バランスガイドは理解が難しいため活用する場合には丁寧な説明が必要です。わかりやすくするDVDなどを作成し配布してはどうでしょうか（佐世保市の地産地消をからめて）。という質問をいただいておりますのでこれも一緒に考えたいと思います。食事バランスガイド、食育ガイドを利用する人が減ったということですね。それから食事バランスガイドをわかりやすく活用するための方策がないか、DVDを利用したらどうかということですが、この2点についての説明を健康づくり課にお願いしたいと思います。

**【健康づくり課】**

食事バランスガイドについてですが、母子健康手帳交付の際に1日の食事の目安量を説明する際に使用しております。また、出前講座など食に関する講話をする際にも食事バランスガイドを使用する場合があります。対象者の反応を見ていると、食事バランスガイドを見たことがありますかと尋ねたところ、見たことがないという方、見たことはあるけれどもどのような内容かは知らないという方が結構いらっしゃるってアンケート結果どおり以前より認知度は低くなってきているように感じております。ご意見にもありましたように食事バランスガイドはなかなか説明がないと見ただけではわからないという欠点がある指針ではないかと思っておりますが、指針の中でも1日の食事の目安量が伝えられるということで現在、母子健康手帳交付の際に使用しております。アンケート結果で食事指針等を知っている方がより望ましい食習慣が行われているということが分かりましたので、積極的に食事指針の啓発や普及に

取り組みたいと考えております。今後、指針も様々なものがありますので、その中で効果が高く、効率が良いものを選択しながら市民の皆様へ普及をしていきたいと考えております。

【会長】

ありがとうございました。

続きまして、6番と7番に×がついていますが、22年と27年ではあまり変わってなくて、大幅に落ち込んでいないので、時間の関係上、先に行きたいと思います。

基本目標の11番「地産地消の推進」です。先ほどご説明ありましたが、目標値が6.4億円から5.9億円へ少し下がって×がついていますが、3次計画で目標値を変更された理由をご説明いただきたいと思っております。農業畜産課お願いします。

【農業畜産課】

この6.4億円の目標から5.9億円と下がった理由として、当初、予想しておりました直売所の増加に加えてスーパーなどの量販店における地場産コーナーの増加によって主要直売所4直売所の売り上げ高が減ったという結果になっております。理由としては以上のような分析でございます。これを踏まえて、第3次計画では地産地消の推進及び生産者との交流推進という基本目標の中で、地産地消を推進する中でいかに市民の皆様が地場産を知ることができまして、それに伴いまして、食を理解し、そこから食への理解を推進することができまして、生産者との交流や健康増進につながるかということが大きな目標となっておりますので、今回、その目標がより正確にみられる数値を指標として挙げさせていただいた次第でございます。

【会長】

はい、わかりました。ありがとうございました。以上のような理由で変更されたということですね。それから、その下の基本目標の12「市街地と農産漁村の交流促進について」上は農林業体験者数の増加についてこれはいいですね。下の漁業体験者数の増加について22年が5,636人で、平成27年が1,623人と減ったように見えますが、漁業体験がブルーツーリズムも含まれているかと思いますが、これについての説明はありますか？水産課の方お願いします。

【水産課】

漁業体験者につきましては、実際に漁業をされている方たちが漁業体験を希望される方たちに漁船で海に出て体験をしていただいたり、クルージングの体験をということになりますが、現在、漁業者数の減少というものが佐世保市の漁業の状況としてございます。また、漁業体験を専属していらっしゃるわけではなく、漁業の実際仕事をしながらの対応という形でしていることと、海上に出るため天候の状況で実際実施できなかったこともあり、事業そのものは継続していただいておりますが、利用者数が伸びていない現状になっております。ただ、今後も漁業の状況を知ってもらいたいという思いがありますので事業としては継続して実施していく方向です。

【会長】

これはブルーツーリズムみたいなものですかね？

## 【水産課】

内容はブルーリズムと似ている内容もありますし、魚のさばき体験や養殖を実施されているところでは、えさやり体験などブルーリズムの事業と別に漁業体験事業という名目を佐世保市では持っておりますので、その両方の内容という形になってきますが、内容的には類似したものと考えていただいてもよいと思います。

## 【会長】

ありがとうございました。

それではこれで野々村委員からの質問のお答えをいただきましたが、野々村委員、ご質問された当事者として何かご意見はありますか？

## 【野々村委員】

今、取組についていろいろお聞きして、とても興味深いなと思いました。いろいろな項目に対応しているということがよく分かりました。興味深かったのが、朝食欠食の目標を挙げても、なかなか小学生は上がらないということがありましたが、入眠時間が遅いのではないかと思います。先ほど、学校での取り組みで朝炒めて食べようというものがありましたが、ちょうど私はそこに行きまして、その授業を見ました。子供たちが朝食の大事さをわかって食べないといけないということをわかっていたのですが、1人だけ食べない子がいました。その子は「朝食の大切さがわかったので食べるようにします」ということでしたが、肥満でした。たぶん、その子は夜遅くに何かを食べて朝起きられないという状況を作っているかと思いました。朝ご飯を食べるために、朝お腹が空くためにどうしたらいいかというのを子供さん達に考えさせて、夜遅くまで起きないで、食べるものに気を付けられれば、また違うのではないかと思います。あと1つは貧困の子供さんも増えており、ある中学校に行ったときに「2割は貧困なんですよ」と言われました。学校によって差があるようですが、これも考えなければならぬと思いました。

あと、興味深かったのが、日本型の食生活とお箸の使い方ということでしたが、日本人はなぜお箸を持って食べるのかということをおぼろげに学ぶとすごく面白いものが出てくると思います。洋風のものは、ナイフとフォークで切るため、食器はみな平たくなっていますが、和食器は多様で、持ち上げてお箸でつまんで、一口サイズに切ってあるとか、そういう流れを教えていくと、日本の歴史とか日本型食文化を理解してもらえて、もっと日本食になじむのではないかと思います。

食事バランスガイドの活用については、以前ほど街で見かけなくなったような気がしました。私たちが学校で教えていきますが、試験のための食事バランスガイドを教えますが、実践としてどうかなということで、食事バランスガイドが1日に食べる量にしてあるので、それを1食の形に具体的に示すと、もう少し実践に結び付くのではないかと思います。全体的に感じたのは、最初に食事の大切さなどの食事の認知を先にさせると興味を持ってくるので朝食の大切さなどを何等かの形で普及させる方法を考えていくと実践ができていくのではないかと思います。それと意見を挙げておりましたように、実践の仕方がわからないということなのでボランティアさんなど興味を持った方達に、足元で、地域で、町内会で活躍して下さる方を増やすことも必要かと思います。食生活改善推進員の方もいらっしゃいますが、それだけでは足りないかもしれないので、若いお母様にPTAを通じてやってもいいのではない

かと思えます。先月、私の大学で、学童期を持つお母様方は子供たちは成長期であるが何をどのくらい何のために食事が必要かをご存じないのではないかと考えて教室を開いてみました。参加者は周知が少なく、広報からあまり時間がなかったですが、6組15名の親子が集まってくださりました。親子で楽しもうということではなく、食べることの大切さを知ろうということでちょっと難しかったかもしれませんが、子供たちからの意見もとてもためになったという話が聞けました。学校でもやっているが、地域でお母さんへの啓発も必要ではないかと思いました。

#### 【会長】

ありがとうございました。貴重なご意見をいただきました。

それでは、資料4の2番目のご質問で、副会長の林委員から全体的なことで「行政の取り組みとして様々なライフステージの対象者へ離乳食講座等学ぶ機会を市民に提供されていますが、それらの参加者数などを会議の際に大まかで構いませんでご紹介いただければと思います。今後、市民の参加を促進する広報の方法などをご検討されているのであれば併せてご紹介いただければと思います」というご質問をいただきました。いろいろなライフステージに対していろいろな取り組みがされております。離乳食講座とありますが、中高年に対する男性のクッキング講座を前にされていたようです。とくに離乳食講座の参加者数や今後の参加の促進のための方法のご検討がありましたらご説明をいただきたいのですが、幼児教育センターの方お願いします。

#### 【幼児教育センター】

離乳食講座ですが、この講座のニーズは高く、以前は年に8回開催していましたが、10回に増やしました。毎回20人の方に参加をしていただいておりますが、アンケートにもありますが、託児を行っているため、お母さん方が参加しやすいということがあるかと思えます。ときにはお母さんと一緒にお父さんも来られる方、それから認定こども園の職員の方の見学もあっております。内容としてはその時期にあった硬さとか量、食材など、基本的なことについての講義を受けた後に実習を行っています。お母さん方はいろんな情報をたくさん持っておられるのですが、実際に実習を行うということがすごく魅力的で「大変勉強になりました」ということでお話をいただいております。本当はもっと増やしたいのですが、幼児教育センターの中でも10回というのはめいっぱい、広報としては、健診の中で配っていただいたり、赤ちゃん訪問事業の中でお母さんから質問があれば、こういう講座があっていることをご紹介していただいたり、それから託児をしていただく応援隊の方にも広報をしてもらっています。それから事業を行った後は必ずfacebookで広報をしております。「どのような事業を行っています」という紹介を行ったりと、とにかく広報をありとあらゆる手を使ってチラシを配布したりしています。特に佐世保市は核家族が多く、転勤族も多い状況で、相談するところがないという若いお母さん方がたくさんいらっしゃるの、少しでも多くの方に参加していただきたいと思って実施しております。

#### 【会長】

ありがとうございました。年10回は大変ですね。質問が林委員からですが、何かコメントはありますか。

## 【林副会長】

ご回答ありがとうございました。離乳食の講座はかなり活発に活動されていて、参加者もそんなに多いのかと知ることができました。これが対象者の年齢が上がってくると参加者集めに苦労されたりしているのではないかと思うのですが、もうちょっと上の年代の対象者の場合の現状について教えていただければと思います。

## 【会長】

ありがとうございました。全体のご意見について後ほどお伺いします。では、次に行かせていただきまして、質問の4番の鶴田委員からの質問がありまして、正しい箸の持ち方などの食事のマナーですね。「数値目標に挙がっているため、より具体的な取り組み内容についてもどこかに挙げていただければと思う（親が正しく使えない場合もある）。今、注目されている日本型食生活とあわせて進めていくと効果につながるのではないのでしょうか」という質問をいただいております。これはアンケートでもお箸の持ち方の絵を出して調査をして、これは良い結果だったのですが、正しいお箸の持ち方などの具体的な取り組み内容があるかということで、お尋ねしたいと思います。ここは学校保健課でしょうか？

## 【学校保健課】

食事のマナーについて、その中の1つの箸の持ち方のご意見として頂戴しております。学校給食は生きた教材として活用して食育指導を行うということで、その中で児童や生徒さん方が安全でおいしく給食を食べて、その食に関する正しい理解を深められるということでこういったことをしております。それから、先ほど野々村委員からお話がありましたとおり、お箸やいろいろなお茶碗を使うことで、そこに興味を持ってから食に関する理解を深められると思っております。この食事のマナーの一環として毎日の給食の時間の中では、正しい箸の持ち方ですとか正しい食器の使い方、持ち方、食事にふさわしい会話などについてもそれから食事のマナーについても繰り返し学習を深めていって、子供たちに学んでいって身に着けていただけたらとこれからも努めてまいりたいと思っております。

## 【会長】

鶴田委員のご質問から親が正しく使えない場合もあるということで、あまり大きなことは言えませんが、僕も箸の持ち方が悪いんですよ。それと今、注目されている日本型食生活とあわせて何かこういった方法がないかということですが、何かございますでしょうか？特になければ結構ですが。

## 【健康づくり課】

大人に対して正しい箸の持ち方ということは改めてそこまではお伝えしていませんが、今、食文化の継承ということで国も言っておりますので、料理教室の中でそういったお話もさせていただきながら推進させていただければと思っております。

## 【会長】

ありがとうございました。

それでは、最後のご質問で7番のホームページなど、特に修正ということではありませんが、「情報提供だけで状況の改善につながるかは疑問です。具体的取組内容について記載してはいかがでしょうか？」

か」という質問をいただいております。計画書案のP40～41です。リーディングプランのところで、例えばP40で「行政のところでホームページなどさまざまな媒体や機会をとおして情報提供に取り組みます」とかP41も一緒に、こういった言葉が書かれていますが、具体的なことがあまりないということに気になられたかと思いますが、この点はどうでしょうか？これは健康づくり課どうでしょうか？

#### 【健康づくり課】

こちらの章が、「家庭でのライフステージにおける食育の推進」ということで、ライフステージごとに幼児期、乳児期などの特徴と家庭での推奨内容、そして行政からの取り組みということで分けてまとめており、学齢期などのところでそのように感じられたようですが、P43以降には「教育及び保育機関などにおける食育の推進」ということで、学校などにおける食育に関することを書かせていただいております。ご意見をいただいた箇所は、「家庭でのライフステージごとの取り組み」としてまとめておいて、分けて書きましたため、ホームページだけと思われたのではないかと思います。5章以降には行政の主な取組状況を記載しております。P40やP41のようなまとめ方が誤解を生じ、わかりづらくなるようであれば、行政の取り組みとところの削除を検討してもよいのではないかと思います。皆様どうでしょうか？

#### 【会長】

ありがとうございました。また後からご意見をいただきたいと思います。これで終わりです。

そしたら、今日、初めに第3次佐世保市食育推進計画に関する詳細なご説明がありまして、この資料4の一覧表にある項目についてもご説明いただきました。ここで、委員の皆様方から何でも結構ですのでご質問等いただきたいと思います。いかがでしょうか？内容が多いものですから的を絞りにくい気がしますが。

#### 【野々村委員】

みんなの食ナビがありましたので、このことについてお尋ねしたいと思います。資料でP41の青年期の家庭のところで2つ項目の下の「外食や昼食を利用する機会が増える傾向にあるため」とありますが、健康づくり応援の店などで健康情報を参考にと書いてありますが、いつも疑問に思いますが、外食される方、健康づくり応援の店を意識して利用されている人はどのくらいの割合でしょうか？

#### 【会長】

いかがでしょうか？ちょっと難しい質問ですが。

#### 【野々村委員】

こういう冊子を見ても、これを見てレストランを選ぶかもしれませんが、外食って特別の日だと思うので、そういう時に健康のためによい食べ物を選ぶとはあまりしないように思います。ちょっと失礼かと思ったのですが、そういうお店があるということで、一度アンケートを取られてもよいかと思います。例えば、健康づくり応援の店に登録されているお店の方に注文する際や最後の会計のところで「今日、このお店を選んだ理由は何でしょうか」と尋ねられてはどうでしょうか。回答は「美味しいから」とか「健康づくり応援の店と表示されているから」等になるかもしれません。「選ぶときに体に良いも

のを選ぼうとしましたか」という質問なども、一度アンケートを取られると利用の状況がわかるのではないかと思います。ひょっとしたらここにいらっしゃる方も、こういうのがあるんだと気づかれた方もいらっしゃるのではないかと思いますのですが、いかがでしょうか？

#### 【健康づくり課】

健康づくり応援の店の認知度につきましては、食育アンケートを取った際に取りました。知っていると答えた方は全体の5%程度でした。その中で、「健康づくり応援の店のヘルシーメニューを食べに行ったことがありますか」という質問をしたところ、約半数の方に「ヘルシーメニューを食べに行ったことがある」という回答をいただいております。ヘルシーメニューを美味しいから食べに行ったのか、またはヘルシーだから食べに行ったのかというところについてはアンケートでは取っていませんので今後の参考にしたいと思います。

#### 【会長】

よろしいでしょうか？他に何かご質問、ご意見等ありますか？

#### 【林副会長】

これからの第3次の推進計画の中で「多様な暮らしに対応した食育の推進」とか子供たちの貧困の問題も取り上げていらっしゃいますが、佐世保でもこども食堂の取り組みが複数のグループで少し始まったとお話を聞いておりますが、この辺は民間の取り組みだと思っておりますが、市の方でそういうのを支援していくことはあるのでしょうか？そのような支援が入ると地域での食育推進へつながるのかと思っておりますがいかがでしょうか。

#### 【会長】

ありがとうございました。今のこども食堂のご質問について、手前味噌ですが、長崎国際大学でも社会福祉学科と健康栄養学科のコラボでこども食堂を開くようになりました。ということで、大学で行っているわけですが、市の方でそういうことを考えられているかどうかということですが、そういう取り組みがございましたらお聞かせいただきたいのですが。

#### 【子ども保健課】

子供の貧困についてですが、まず、食事とは関係なく、学習支援というところで生活困窮の方であるとか生活保護を受けていらっしゃる子供さんに関しての学習の取り組みということを中心に市の方で取り組んでおります。今、おっしゃられました子供の貧困に関するこども食堂に関しましては、民間の方で少しずつ開始していただいております。私達もどういう方を対象に、市として貧困の方に食事を提供するという方法が、まだ模索中でありまして、民間の方で、地域の方でご飯を食べましょうという中に貧困の子供さんが入るといのはすごくいいことだと思いますし、大学の方で、そういった方を対象に呼ばれて、大学に行って勉強したいなというようなことを思っただくような方向もいいなと思います。市として、貧しい方にとかネグレクトのご家庭もたくさんありますので、これは私の意見ですが、そういったネグレクトの家庭のお母様やご家族がなかなかお料理ができないので、子供さんを公民館に呼んで学習支援の流れの中でやっていくようなことを今から先、考えていかなければならないと思

いますけれども、具体的に市として子ども食堂についての市の取り組みというのは今のところ模索中であり、あります。

【会長】

他の自治体で何か子ども食堂をやられているということは聞かれたことはありますか？

【林副会長】

子ども食堂は基本的に民間の活動だと思いますので、行政が子ども食堂を開くというのは難しいかと思えます。その活動されている方へ場所を提供するとか、食材を集めるのに苦労されるかと思えますので飲食関係とか生産者の方との仲を取り持ってあげるなど、そういう意味での活動支援であれば市だったらできるのではないかと考えています。それが食育の推進に関わってくるとより活動が活性化するのはと思いました。

【会長】

ありがとうございました。

【保健福祉部長】

実は6月議会でも一般質問で食品ロスという観点から、例えばフードバンクが作れないかとか、そういう子ども食堂に行政が手助けができないのかというご質問が出たのですが、今、お話があったように今のところNPO法人などの民間の方が中心となってされております。フードバンクについては実施している自治体が1市あります。そこについても職員を配置して消費期限などを管理しながらやっているというようなところがあったのですが、例えば佐世保市でやるとなると、そういう人員配置ができるのかということや、もしもフードバンクを作ってそれを子ども食堂へお配りして、そこで食中毒が発生したらどうしようかとか、行政が行いますと色々な問題が発生しますので、今のところは食品ロスを第3次の食育推進計画の中で進めてまいりますというようにお答えを差し上げたところでございます。なかなか行政が積極的にそれをすることは難しい部分がございます。

【会長】

ありがとうございました。他にご意見、ご質問等ございますか。

【山田委員】

先ほどのお話の中で8番の8020運動の推進については別の会議でというお話が出ておりましたが、それはそういうことで会議をやっておりますのでそっちの方でやるということもあろうかと思えます。それから項目が全部◎ということで非常に結果が良いということで歯科関係者としては喜ばしいことだとは思いますが、しかし、例えば、虫歯のない児童の割合、小学校6年生で7割の方が虫歯がないというお話がございますけれども、先ほどからお話が出ておりました貧困の問題であるとかネグレクトの問題であるとかで確実に悲惨な口の中の子供さんがおられるんですね。こういう方がきちんとした食事がとれているか、これは機能的に不可能であるだろうというような方が確実におられます。それから歯科健診の成人の場合が42.1%で高いか低いかわかりませんが、例えば、ご高齢の方で金銭的

な問題で入れ歯を入れていच्छらない方や歯槽膿漏で歯がグラグラのままの方もいच्छいます。そういう方に繊維質のものを食べるといっても機能的に無理です。きちんとした食事をするというのは、歯や口の健康があって、それは大前提だと思います。8020 運動については別の会議でいくとのことですが、この委員会でもその部分はきちんとおさえて検討の対象としていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【会長】

どうもありがとうございました。この8020のところは◎がついてですね、非常に委員会としてもうれしい感じがしておりますけど。

【事務局】

すみません。今◎ということ言っていたのですが、小学校6年生、中学校3年生の数字のところでは結果と目標値を見比べたときに◎としているのですが、△でした。すみません。訂正をさせていただきたいと思います。それと、引き続きまして、農林業体験利用者数の増加のところは△としていましたが、4,370人ということでこちらの方は◎ということになります。申し訳ありませんでした。

【会長】

上の2つが◎から△で3つ目が◎ですね。ちょっと残念です。他にはございませんか？

【山村委員】

初めて出ましたものでよくわかりませんが、今回28年から6年間の計画ということで、6年後の数値計画を立てたと思うのですが、中間での検証とかはどうされているのか教えていただいてもいいでしょうか。

【会長】

いかがでしょうか。

【事務局】

年に1度、事業プラン等の進捗状況を管理させていただいておりますので、そちらの方を見ながら検討させていただきたいと思います。

【会長】

よろしいでしょうか。

【山村委員】

はい。

## 【会長】

他には何かございませんでしょうか。

## 【川崎委員】

意見何でもということですので、気づきということでお話しさせていただきたいと思います。食については先ほどからお話が出ております子供の貧困ということにつきましては、格差社会、かたや非常に食に興味を持っていろいろなことを学んでいこうというような姿勢の方々の人数が増えている中で、逆に子供の貧困ということでは、本当にご飯を家で食べているのだろうかという心配をされるような子供達もいるという現状に、我が佐世保市もあるのではないかと思います。いろいろなボランティアの活用ということは、まだまだできる分野があるのではないかと思います。私自身も民生委員をしておりますが、どういった方にどのように手を差し伸べていいかというような、どのような動きができるようなということに関しましては、正直言って情報がほとんどありません。かなり重要な状況になってから学校などを通じての協力依頼が入ってくるような現状にあります。その辺りのいろいろな役を持っている方達との連携ということを、何かもう少しいろいろな分野できめ細かく取っていけるようなことがあれば、それぞれが必要としている方法でのいろいろな支援ができるのではないかと感じております。

また、先ほどから出ておりますバランスガイドとかみんなの食ナビにつきましても、これも毎回、何かいろいろなお話が出ていることだと思いますけど、市民へのいろいろな周知ということでは、バランスガイドについては一番最初に出てきたときには、いろいろなところでの告知があったかと思いますが、最近では見かけなくなったという意見が昨年度も出ていたかと思いますが、それから、みんなの食ナビにつきましても、この冊子に掲載されるお店の条件というのが、健康とか健康づくりということの1つでも要件を満たしていれば、お店が希望すれば載せていただけるというようなお話もございました。例えば、分煙をしているというようなことがあれば、その1点でもここに載っかってくるというような。これをパッと見たところ、すごく食に特化したお店なのかなと一見すると思う訳ですけども、何か1つでも要件を満たしていればというようなところで、冊子の作り方についても、私達市民が健康について考える1つの観点となるような冊子を作るということにつきましては、作り方も考えなければいけないのではないかと感じたりしております。すみません。いろいろお話が飛びまして申し訳ありませんけれども、今思った気づきということでお伝えしたいと思います。

## 【会長】

ありがとうございます。非常に貴重なご意見をいただきました。健康づくり応援の店で、例えば分煙をしているだけでも入ってしまう。今のご意見に対して少し改善したほうがいいのかというご意見ですが。

## 【健康づくり課】

現在は、分煙あるいは禁煙のみのお店というのは健康づくり応援の店としては登録していません。

別に禁煙分煙の店ということで健康づくり応援の店とは別に登録しております。ご指摘のとおり、登録の条件がわかりにくかったり、先ほども野々村委員からありましたとおり市民の活用がなかなかできていない現状がありますので、今後、食ナビ自体の作り方や市民への周知の仕方というのを健康づくり課でも模索しているところです。ご意見を参考に考えていきたいと思います。

【会長】

ありがとうございました。今は禁煙・分煙だけは載っていないのですね。前は載っていたのですね。よろしいですかね。

【川崎委員】

後ろに載っている項目を満たしていれば、これに掲載をしていただけるということですよ。後ろに表がありますよね。この中のどれかの項目を満たせばということよろしいでしょうか。

【健康づくり課】

はい。そうです。

【川崎委員】

1つでもということになりますよね。

【健康づくり課】

そうですね。

【川崎委員】

これにつきましてもう1ついいでしょうか。この冊子への掲載というのは広く募集をしてこれに載っていればということで、その後その店の調査などをしての掲載なのでしょうか？

【健康づくり課】

冊子を作る際にその都度最新情報を確認しまして載せております。この裏の項目の中に煙草とありますが、これは、煙草のみ登録しているという訳ではなく、健康づくり応援の店の条件プラス煙草についての取り組みをされている場合の煙草と考えていただければと思います。ですから、煙草のみについているお店はない状況となっております。

【川崎委員】

これをもとにこのお店を利用してみたいと思います。

【会長】

ありがとうございました。他にありませんか。

【土井委員】

P6の10番のところですが、健康診断についてということで、これが平成22年の調べで60.8%、それが27年の調査結果で62.8%となっております。わずか2.2%の増加で、5年間で△がついていますが、目標値が80%とかなり高めに設定してあったんですね。ですから、今度の第3次でどのくらいに計画しているのか。かなり目標との開きがあったのでそこをどういう風に具体的にこの数値に

近づけていこうとしているのかという点が1点。それと、健康診断については、大企業であるとか、学校であるとか、ある程度きちとした職場についていると年1回職場健診というのがありますが、それ以外の零細企業とか、あるいは職についていない方、逆にそういったところにハイリスクの方が結構固まっているので、この辺のハイリスク者とか、定期的を実施していない方達に対して、そこをターゲットに、どうやって効果的に進めていくのかについてお聞きしたいと思います。

#### 【会長】

ありがとうございました。私も一応内科医なので非常に残念な気がしておりますが。事業所であれば事業所健診というのが決まっていますので、年に1回もしくは2回行うことになっていますけれども。住民健診というのもございますが、今のご意見でどうでしょうか？何か説明がありますか。

#### 【健康づくり課】

10番の健康診断についてですが、こちらの方が定期的に健康診断を受診する市民の割合の増加ということで、今までアンケートで受診率を調査していましたが、アンケート項目で調査するということが信頼性が低いのではとこちらの方では考えておまして、目標値にはおっしゃるとおり達していないのですが、評価項目からはこちらは削除することを考えまして、それで、けんこうシップさせば21という別の計画書がありまして、そちらの方で健診の方は受診勧奨のところ項目がありますのでそちらの方に引継いでいくように思っております。

#### 【医療保険課】

医療保険課は、国民健康保険に加入されている方に対して特定健診を行っています。40～74歳の方が対象になっております。今、土井委員の方からご指摘がありましたように、社会保険とか協会けんぽとか健康保険組合に所属されている方は、職場健診は義務付けられているので、ほとんど100%に近い方が健診を受けていらっしゃいますが、国民健康保険加入者の方は保険者の方に健診をするようにという義務付けがあるのですが、被保険者の方には義務付けがありませんので、対象になる方には全員、特定健診の受診券を毎年発行しておりますが、受けてくださる方は佐世保市はちょっと低いです。35%ちょっとしかなくて、おっしゃられたとおり、やはり受けている方だけの状況で見ると、生活習慣病になっている方、そういうリスクの高い方がたくさんいらっしゃいますので、治療中の方もたくさんいらっしゃるのでも定期的に見てもらっているから特定健診は受けないという方もたくさんいらっしゃるのですが、そういう中でもリスクを持っている方がいらっしゃるのでも、多くの方にこの特定健診を受けていただいて重症化にならないようこちらは支援をしていきたいのですが、特定健診を受けてくださる方が少ない状況です。目標としては平成29年度60%と掲げてはいるのですが、35%ちょっとということで低い状況にあります。

#### 【会長】

長崎県のBMI（体格指数）は、男性はワースト1位で、女性がワースト2位なんですね。これは何とかしなければいけないという思いですが。他にご意見はございませんか？

【土井委員】

今の件についてもう1度確認ですが、健康診断についての項目は評価から外れるという受け止め方でよろしいでしょうか。

【事務局】

そうです。

【土井委員】

結構、健康診断については、市もダイレクトに受診票を郵送したりしてかなりのお金を使っていると思いましたので、それにしても6割とか80%に対して増加も少ないし、どうなのかとお聞きしました。では、健康診断については削除されて、全くここの中からは出ていくということですね。

【事務局】

そうですね。けんこうシップさせぼ21という計画書が別にありまして、そちらの方で引き継いでいただきたいというところで。

【土井委員】

長崎県の健康寿命も結構ワーストなんですね。ですから、そういったところからもちょっと気になりましたので。

【会長】

ありがとうございました。ほかにご意見はございますでしょうか。

【野々村委員】

今の健康診断の続きなのですが、削除はされますが、別のところでですね。健康診断を受けて、情報提供でよいとか、階層化になっていましたけれども、やっぱり放置はできないなというところで、結果を持っていろいろな病院で受診される方の割合はどれくらいかというのを追跡された方がいいのではないかと思います。実は私は、あるクリニックで栄養指導をやっているのですが、健康診断で指摘されたけれどもずっと何年も放置していて、具合が悪くなったので来ましたというケースが結構あるんですね。せつかくの早期発見ということであれば、受診率は少ないながらも早く改善へ向けて病院とかへ行くように勧めるという活動も必要ではないかと思います。重症になって改めて放置していた。食事も今更言われてもどうしようもないということになりますので、早めの受診というところでは、それを勧める1つの目標にされてもいいのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございました。日本自体は外国に比べてがんの健診の受診率が非常に低いんですね。そこに根本的に問題があるのではないかと思います。

## 【井手委員】

私も健康診断をほとんど受けていませんでした。それで、ちょっと血圧が高かったので、ある病院に行きましたら健康診断を受けていますかと言われました。ずっと書類が来ますけれども1回も受けたことがないということで、そこでいろいろな、その病院にあるものを受けました。そしたらやっぱり病気が出てきました。そのときは体的に健康で、食事も美味しいし、何も支障がなく、ちょっと血圧が高かったので行ったのですが、そのような結果でした。自分の健康は自分で維持しなければいけないということを年とともに感じました。食事のことにしましても、ある程度は高齢者として考えてはいるのですが、夏になりますと野菜とかはあまり食べられないです。あっさりしたものが食べたい。こってりしたものだったら外食で何か食べようかなというくらいで粗食の方が多いかもしいないですが、野菜を350g取りきれない時にはよく宣伝する青汁はいいよというのがありますが、その野菜の中の350gの中に野菜1杯はどれくらい入るのかお願いしたい。青汁で野菜を取ってもいいかなというけど食べ物で取りきれないところは、補給はどれくらいしたらいいかと。

## 【野々村委員】

青汁とか今、これ1本で350gの野菜分というのがありますが、実際に野菜350gの栄養素をしっかりと計算しますと、カルシウムは牛乳1本以上、食物繊維は1日に取らなければいけないものの3分の2とか、エネルギーは低いけれども体に必要なものはちゃんと取れます。ジュースの350g分の表示を見ますと到底及ばないというところであります。いつも私が伝えているのは、皆さんは栄養素にばかり目が行ってしまいがちですが、国が示している簡単な主食・主菜・副菜の3つのお皿が取れることで知らない間にちゃんとバランスが取れているのですね。そういうことで食事バランスガイドとかを実践することにつながっていくと思います。しかも青汁というのは青汁だけでよければとても苦くて飲めないと思うのですが。やはり美味しくしてあるというからくりもあるのではないかと思います。糖尿病の患者さんたちを指導していて、体にいいからと青汁を朝晩飲んでいますが、やめてもらったら改善できたこともあるので、口から味わってということであれば、美味しさが脳を活性化していきますし、もしできるのであれば。野菜というと皆さん生野菜だけのイメージが強いと思うのですが、乾物の干し大根であるとか、ひじきとかキノコ・海藻もありますので、食べやすい形で朝昼晩100g、火が通ったものを片手ずつでもいいですので、取るようにすると、350gを一気にというイメージよりも、楽にとれると思います。トマト1個にしても150g程度あるので足りないと思っても、朝昼何かしらつけると多分取れると思いますので、そちらの方がいいのではないかと思います。

## 【井手委員】

いつも宣伝されるので、私は主人がちょっと病気で、青汁はダメと言われている病気を持っているので、それは利用していないのですが、宣伝で言われているのを聞くと、どの程度のものがあるのかと思ひまして。

## 【野々村委員】

皆さん健康になりたいという思いはあると思いますが、できれば楽しんでという気持ちがあるのではないかと思います。そこを業者はちゃんと見ているのではないかと私なりに思っています。口からよく噛んで、美味しくというところでは、よく噛んでいるということは野菜を取ることでよく噛むという効

果もあるのではないかと思います。

【会長】

ありがとうございました。

まだ、ご意見があるかと思いますが、時間がだいぶ押してきましたので、本日、この場で決まったことを集約いたします。

今回は、第3次佐世保市食育推進計画の策定につきまして諮問を受けました。そして、委員の皆様から活発なご意見をいただきました。事務局の方に質問の回答をいただいたのですが、この食育推進計画書ではわからない活動をされているということを感じました。いろいろな部署でいろいろなことをされているということを強く感じた次第です。それから、委員の皆様にはいろんなご意見をいただきまして、健康づくり応援の店の冊子の在り方ですとか、これをどうするかということ、経過を見たほうが良いという意見もありましたし、こども食堂のことも話題となりました。今後、どうしていくか、全国的に広まっていくだろうと思いますが。山田委員から子供のひどい虫歯の方もいるということをご紹介いただきました。ボランティアの活動の場をもう少し広げたほうが良いのではないかとご意見をいただきましたし、健康診断についてはいろいろご意見が出ましたけれども、長崎県全体の健康の維持をいかにどうするかということも食育とからめて今後、考えないといけないなとつくづく感じた次第です。

そこで、本日の会議の内容を受けまして、事務局が計画書案を修正したものを各委員に送付していただきまして、各委員に確認していただきたいというように思います。その計画案を持ってパブリックコメントを実施することになります。パブリックコメントに寄せられた意見をもとに、必要であれば修正を加えまして、最終案として市長への答申としたいと思っております。答申についてですが、会長の私に一任していただいでよろしいでしょうか。

～異議なし～

【会長】

ありがとうございます。会長の責任におきましてきちんとした答申書を作成したいと思います。ありがとうございました。

それでは、次に議事の2がございしますが、その他ということで、皆様から議題として取り上げてほしいものの提案がございましたらお願いしたいと思います。何かございしますか。

～なし～

【会長】

それでは、これで本日の案件はすべて終了いたしました。皆様のご協力で会が滞りなく終了しましたことを感謝申し上げます。それでは事務局にお返しいたします。どうもありがとうございました。

これで、本日の案件は、すべて終了いたしました。

皆様のご協力で、会議が滞りなく終了しましたことを感謝申し上げます。

それでは、事務局へ返します。

【事務局】

柴田会長、ありがとうございました。

では最後に、次回の開催日程につきましては、この計画書完成後となる予定ですが、会長と協議させていただき、委員の皆様には改めてご連絡を差し上げたいと思いますが、よろしいでしょうか。

～異議なし～

では、日程が決まり次第、ご案内を差し上げます。

これもちまして、「平成28年度第1回佐世保市食育推進会議」を閉会いたします。

皆様、長時間お疲れさまでした。

今後とも、市の食育推進にご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。